

水産試験場概要*

1 建物・施設等

総面積	3,241 m ²
建物敷地面積	2,616 m ²
建物延面積	1,641 m ²
本館延面積	399 m ²
付属施設面積（7棟）	1,242 m ²

漁業調査船「きのくに」

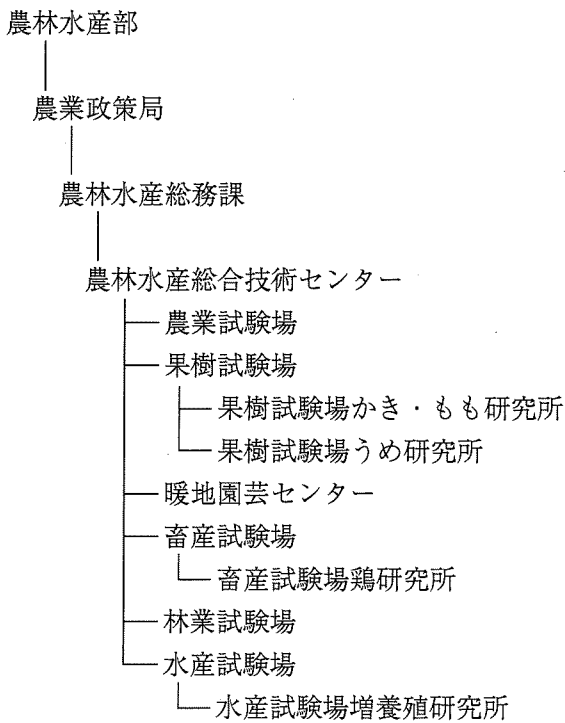
平成8年11月竣工 鋼製99トン、ディーゼル1200馬力

公害調査船「しお風」

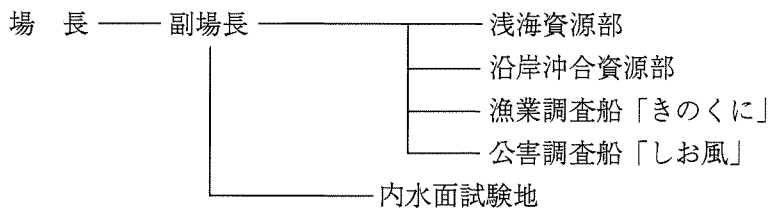
昭和57年3月竣工 FRP製 7.95トン、ディーゼル85馬力

2 機構と組織

1) 機構



2) 内部組織



※平成17年度農林水産総合技術センター年報、水産試験場概要に一部加筆、訂正、削除したものである。

3 職員の構成

区 分	行政職	研究職	現業職	計
場 長		1		1
副 場 長		1		1
調 査 船	7			7
沿岸沖合資源部		6		6
浅海資源部		4	1	5
内水面試験地		4	1	5
計	7	16	2	25

* 浅海資源部長は副場長が兼務

4 職員と事務分担

部 名	職 名	氏 名	事 務 分 担
	場 長	小川 健	場の総合企画及び統括
	副 場 長	坂本 博規	場長の補佐、職員の人事・服務、庁舎・公用車の管理、職場研修、予算の総括、公印の管理、文書の収受・発送・編纂・保存、作業員賃金の歳出事務、広報
浅海資源部	部 長 (副場長兼務)	坂本 博規	部の総括・企画調整
	主任 研究員	小川 満也	漁業効果調査、多元的資源管理型漁業の推進 (イサキ、タチウオ)
	副主査研究員	諏訪 剛	内湾・沿岸域における漁業環境 (浅海海洋、藻場)
	副主査研究員	向野 幹生	アワビ類の再生産機構調査、多元的資源管理型漁業の推進 (イセエビ)、漁業資源調査 (マダイ)
	研 究 員	南 友樹	多元的資源管理型漁業の推進 (ヒラメ)、栽培漁業推進対策 (ヒラメ)
	用 務 員	田中 千秋	場の環境美化、その他の雑務
沿岸沖合資源部	部 員	吉本 洋	部の総括・企画調整
	主任 研究員	中地 良樹	漁海況予報事業 (海洋観測、係留系観測、モジャコ)、海洋構造変動パターン解析技術開発試験
	主任 研究員	小久保友義	人工衛星画像解析システムの運用 (情報提供)、日本周辺高度回遊性魚類資源調査 (マグロ・カジキ・サメ類)、イルカ資源管理
	副主査研究員	内海 遼一	漁海況予報事業 (海洋観測、定地観測、係留系観測)、資源評価調査 (卵稚仔、プランクトン)、資源回復計画 (サワラ)
	研 究 員	安江 尚孝	漁海況予報事業 (海洋観測、定地観測、係留系観測)、資源評価調査 (イワシ類、卵稚仔、プランクトン)
	研 究 員	土居内 龍	漁海況予報事業 (海洋観測、定地観測、係留系観測)、資源評価調査 (TAC 魚種など)
調査船 「きのくに」	船 長	東田 和行	運行管理、海洋調査・観測
	機 関 長	亀谷 弘	機関管理、海洋調査・観測
	副主査航海士	吉田 哲也	運航、海洋調査・観測
	副主査機関士	岸 幸一	機関操作、海洋調査・観測
	航 海 士	半田 憲生	甲板業務、海洋調査・観測
	航 海 士	住谷 勝志	甲板業務、海洋調査・観測
	機 関 士	堀 浩一	機関操作、海洋調査・観測
内水面試験地	主任 研究員	加藤 邦彰	試験地の総括、魚類防疫対策、冷水病野外調査、アユ資源調査
	主 査 研究員	藤井 久之	試験地の総括補助、冷水病野外調査、魚類防疫対策、アユ資源調査
	副主査研究員	原田 慈雄	アユ資源調査、冷水病野外調査、魚類防疫対策
	副主査研究員	木村 勝治	施設整備、その他業務補助
	現業技能員	佐竹 功三	施設整備、その他業務補助

5 平成17年度事業予算と財源内訳

(単位：千円)

事業名	予算額(千円)	財源内訳		
		国庫補助金	雑入	一般財源
水産試験場費	99,049	1,050	28,136	69,863
水産試験場運営	3,460			3,460
調査船運航	49,693			4,969
漁業資源・漁場調査と情報提供	15,229	300	14,929	
高度回遊性魚類調査	2,700		2,700	
内湾・沿岸域における漁場環境調査	774			774
海色衛星画像などを使った漁場探索	3,358		3,358	
広域沿岸海況の短期予報研究	1,275		1,275	
アワビ類再生産機構調査	1,005	750		750
マルアジ資源管理モデル開発	911			911
アマモ場造成技術開発	880		880	
内水面試験地運営	13,529		1,894	11,635
養殖衛生管理体制整備	1,500	750		750
アユ資源モニタリング	4,735		3,100	1,635
水産振興費	2,824			
漁場保全対策推進	275	137		138
栽培漁業推進対策	408			408
資源管理体制・機能強化総合対策	2,141	1,070		1,070
漁業構造改善費	1,147			1,147
漁場効果調査	1,147			1,147
合計	103,020			

6 平成17年度試験研究概要

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
1) 漁業資源・漁業調査と情報提供 15,229千円 (雑入、一般)	沿岸沖合資源部・ 浅海資源部 S52～H23	<p>【内容】 本県沿岸の海況と漁況に関する基礎資料を定期的に収集し、漁海況変動の予測を行うとともに、情報を迅速に処理して関係者に提供する。</p> <p>【結果】 海洋観測調査(沿岸・浅海定線)を月1回実施するとともに各地の水揚げ量を集計し、さらに長期予報を行い関係情報を漁海況速報(週1回、FAX)として関係機関へ提供した。平成17年の特徴は黒潮大蛇行が8月に終息し、本県の観測資料等は中央ブロック長期予報会議(年3回)で漁海況変動の予測のための基礎的データとして利用された。</p>
① 漁況海況予報事業 (漁業管理体制強化実施推進地域レベルでの漁況海況情報の提供)		

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
<p>② 漁業資源調査 (資源評価調査)</p>	<p>浅海資源部</p>	<p>【内容】 我が国周辺水域における漁業資源の合理的な利用を図るための基礎資料を収集するとともにその資源評価を行う。</p> <p>【結果】 アジ、サバ、イワシ等について、漁獲状況調査、卵稚仔調査（沖合定線、モジャコ調査）、生物情報収集調査、標本船調査等により基礎データを収集した。TAC 関連魚種については、関係機関と共同で資源評価を行い、当該資源の合理的な利用をはかるための有効なデータとして役立った。</p> <p>【内容】</p> <p>(マダイ) 資源並びに放流・資源管理効果のモニタリングを行う。また、管理計画の見直し並びに漁業種類の拡大を図る。</p> <p>(ヒラメ) 資源管理のためのモニタリング調査を実施する。また、管理計画の見直し並びに漁業種類の拡大を図る。</p> <p>(タチウオ) 箕島町漁協における漁獲実態と小型底曳き網標本船調査によりタチウオ資源のモニタリングを行う。</p> <p>【結果】 (マダイ) 加太、雑賀崎、湯浅中央漁協で市場調査を行った。雑賀崎、湯浅の漁獲量は前年を下回ったが、加太では前年を大きく上回った。</p> <p>(ヒラメ) 雑賀崎、湯浅中央、比井崎、南部町漁協での市場調査の結果、全ての漁協で漁獲量が前年を上回った。特に紀伊水道外域の比井崎、南部町では前年を大きく上回った。</p> <p>(タチウオ) 箕島町漁協の水揚げは、1,800トで前年より良く、特に2月が500トと豊漁であった。南部町漁協は53トで不漁であった。</p>
<p>2) 海色衛星などを使った漁場探索の高度化技術開発と運用 3,358 千円 (和歌山県研究開発推進基金)</p>	<p>沿岸沖合資源部 H15～H17</p>	<p>【内容】 人工衛星画像受信解析システムを運用（保守管理）するとともに、受信した画像を解析し即日情報として迅速に提供した。これらの情報は広く漁業者に利用されており、さらに、海色画像を組み合わせ漁場探索の高度化技術を開発し操業の効率化を図る。</p> <p>【結果】 画像情報を人工衛星画像海況速報として作成し、FAX 送信、FAX ボックス、本県ホームページなどで迅速に情報を広く公開した。年間 192 回の情報を発行し、漁場探索情報として利用された。近年、漁業者以外にもマリンレジャーなどにも利用されている。また、海色画像と水温画像を組み合わせカツオ漁場探索マップを作成するシステムを開発し、ホームページを立ち上げ情報提供できるようにした。</p>
<p>3) 高度回遊性魚類調査 2,700 千円 (雑入)</p>	<p>沿岸沖合資源部 H13～17</p>	<p>【内容】 高度回遊性魚類資源の科学的データを完備するため、カツオ、マグロ類等の漁獲実態調査を実施する（勝浦・串本漁港他）。</p> <p>【結果】 高度回遊性魚類の漁獲状況調査（カツオ、マグロ類、カジキ類、サメ類）および生物測漁況概況の聴取（マグロはえ縄漁業）などを行いデータを収集した。これらのデータは</p>

課題名及び予算額	期間・担当部	内容及び結果の概要
9) 資源管理体制・機能強化総合対策 2,141千円(国補) タチウオ 1,574千円、 イサキ 566千円、	浅海資源部 H10～	【内容】 (タチウオ) タチウオの資源量を把握するため、生物測定および市場調査を実施する。 (イサキ) 資源の現状を明らかにするため漁業実態調査および遊漁船調査等を実施する。また、管理計画を作成する。 【結果】 (タチウオ) 箕島町漁協で月1回の生物測定および市場調査を実施して、タチウオ資源を解析した。 (イサキ) 市場調査で約3万尾を体長測定し、これをもとにイサキ資源を解析した。また、御坊市を中心に遊漁船調査を実施した。
10) 漁場保全対策事業 275千円(国補)	浅海資源部 H7～	【内容】 串本浅海漁場の水質環境の把握ならびに保全技術の開発を図る。 【結果】 各月1回調査した。串本浅海漁場では、夏季は水温が17～26℃、塩分が21.7～35.1psu、冬季は水温が13～19℃、塩分が34.3～34.6psuであった。

7 一般業務概要

1) 平成17年度刊行物一覧(平成17年4月～平成18年3月)

- 平成16年度 多目的な資源管理漁業の推進事業報告書
- 平成15年度 広域資源増大緊急モデル事業(瀬戸内海東部海域調査報告書、瀬戸内海西部海域調査報告書、関係各県と共同執筆)
- 平成16年度 和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場事業報告
- 平成16年度 漁海況予報事業報告書
- 漁海況速報(週刊)
- 赤潮情報(赤潮発生時に随時発行)
- 沖合黒潮調査速報(黒潮横断観測実施ごとに発行、2004-No.3～6)
- 人工衛星画像海況速報(2004-No.54～192、2005-No.1～39)

2) 平成17年度主要な技術研修及び講演等実績

月	内 容	場 所	対 象
9	紀南海域におけるサンマの分布生態について	高知市	平成17年度中央ブロック資源・海洋研究会出席者
10	水産試験場成果説明会 (テーマ:イセエビの資源管理)	串本町 下田原漁協	水産試験場成果説明会出席者
	水産試験場成果説明会 (テーマ:和歌山県沿岸におけるタチウオ卵の出現について)	有田市 箕島町漁協	水産試験場成果説明会出席者
11	水産試験場成果説明会 (テーマ:アワビ類種苗放流効果について、アワビ類漁獲量の現状と増加に向けて)	和歌山市 加太漁協	水産試験場成果説明会出席者
	水産試験場成果説明会 (テーマ:アジ・サバ類の資源状況について)	御坊市 日高振興局	水産試験場成果説明会出席者

月	内 容	場 所	対 象
12	水産試験場成果発表会 (テーマ：タチウオ卵の出現、ひき縄漁における人工衛星の利用について) 人工衛星とひき縄漁について 平成17年度水産試験研究機関の成果発表会	田辺市 すさみ漁協 田辺市 紀南文化会館	水産試験場成果発表会出席者 すさみ漁協所属漁業者 一般県民、漁業者
1	カツオひき縄漁について	白浜漁協	白浜漁協所属漁業者
2	第1回和歌山県資源回復計画作成推進事業 (太平洋区) 漁業種別漁業者協議会 イセエビ資源管理に係る検討会 イサキ資源回復に係る検討会	串本町 浦島ハーバーホテル 下田原漁協 御坊市 御坊市漁協 白浜町 日置漁協 串本町 浦島ハーバーホテル	漁業者協議会委員 下田原漁協所属漁業者 日高管内の漁業者 西牟婁管内の漁業者 東牟婁管内の漁業者
3	和歌山県栽培漁業推進協議会 第2回和歌山県資源回復計画作成推進事業(太平洋区) 漁業種別漁業者協議会 和歌山県資源回復計画作成推進事業 和歌山海区漁業者協議会	和歌山市 水産会館 串本町 串本ロイヤルホテル 和歌山市 水産会館	協議会委員 漁業者協議会委員 漁業者協議会委員

3) 平成17年度研究成果の発表・公表

(1) 一般雑誌

題 名	発 表 者	発 表 誌
和歌山のイサキ資源が半減23センチ以下はリリースを！	小川 満也	釣サンデー 2006.3 vol.3

(2) 学会発表・学会誌等への投稿

題 名	発 表 者	発 表 誌
紀南海域におけるサンマの分布生態について	内海 遼一	黒潮の資源海洋研究第7号、73-76

(3) 農林水産省研究会等資料

題 名	発 表 者	発 表 誌
平成 17 年度赤潮・貝毒西日本ブロック会議	南 友樹	同会議資料
平成 17 年度漁場環境保全推進事業南西ブロック会議	南 友樹	同会議資料
平成 17 年度第 1 回イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	中地 良樹 内海 遼一 土居内 龍	同会議資料
平成 17 年度第 2 回イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	中地 良樹 安江 尚孝 土居内 龍	同会議資料
平成 17 年度第 3 回イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議 (FAX)	中地 良樹 安江 尚孝 土居内 龍	同会議資料
第 36 回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議	安江 尚孝 土居内 龍	同会議資料
2005 年冬春季の紀伊水道東部域～熊野灘南部における主要魚種卵稚仔の出現状況	内海 遼一 安江 尚孝	平成 17 年度中央ブロック卵、稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会研究報告 No.25
平成 17 年度ピンナガ資源来遊動向検討会	小久保友義	同会議資料
平成 17 年度カツオ長期来遊資源動向検討会	小久保友義	同会議資料
平成 17 年度日本周辺高度回遊性魚類資源調査再委託事業報告会	小久保友義	同会議資料
平成 17 年度中央ブロック資源評価担当者会議 (沿岸資源動向調査)	小川 満也 安江 尚孝	同会議資料

(4) 新聞掲載

記事見出し(内容)	掲載年月日	掲載誌名
新種のイブリカマス白浜沿岸でも水揚げ	7月31日	紀伊民報
串本カマスが足りない	10月15日	紀伊民報
黒潮おかえり	10月5日	朝日新聞
イサキの資源回復へ	5月3日	紀伊民報
イサキ漁獲高回復を	5月9日	毎日新聞
紀南のイサキが危ない	12月25日	紀伊民報